南米[ブラジル]

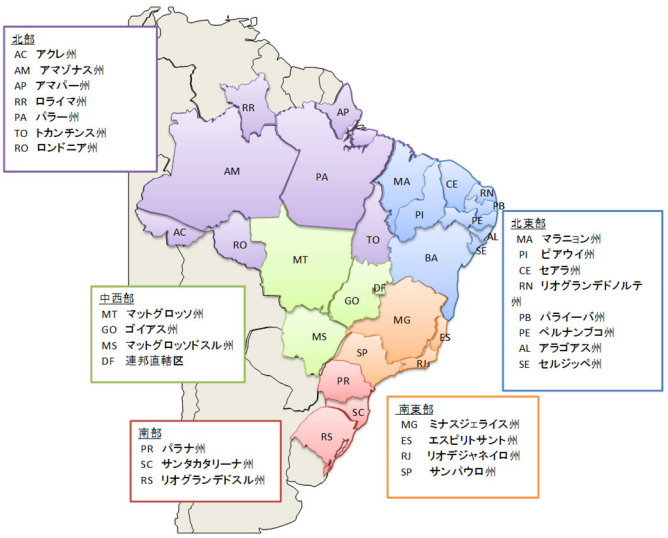
1　農・畜産業の概況

ブラジル政府の農牧センサス（２０１７年）によると、農業経営体５０７万戸の所有面積は３億５０３０万ヘクタールで、このうち農耕用地が６３４０万ヘクタール、牧草地が１億５８６０万ヘクタールとなる（図１、表１）。ブラジル国家食糧供給公社（ＣＯＮＡＢ）によると、２０１９/２０年度（１０月～翌９月）には、６５９２万ヘクタールが穀物生産に向けられ、生産量は２億５７０２万トン（前年度比１２．９％増）となった。

畜産分野では、１９年の牛肉生産量は米国に次ぐ世界第２位、鶏肉生産量は米国、中国に次ぐ世界第３位となった。また、豚肉生産量は中国、ＥＵ（２８カ国）、米国に次ぐ第４位となった。輸出量は牛肉、鶏肉が第１位、豚肉がＥＵ、米国、カナダに次ぐ第４位となった。

１９年の農産物（農畜産物、林産物および水産物）輸出額は、９５８億米ドル（前年比４．３％減）となった。また、同年の農産物輸入額を差し引いた農産物の貿易黒字は８３０億米ドルとなり、農業部門が国の貿易収支に重要な役割を果たしている。

図１　ブラジルの行政区分



資料：ブラジル地理統計院（IBGE）のデータを基に機構作成

表１　農場面積と農場数の推移

（単位：千戸、千ha）

	1975	1980	1985	1996	2006	2017
農場数	4,993	5,160	5,802	4,860	5,176	5,072
農場面積	323,896	364,854	374,925	353,611	333,680	350,253

資料：ブラジル地理統計院（IBGE）

2　畜産の動向

（１）肉牛・牛肉産業

ブラジルの肉牛生産は、広大な牧草地を利用した放牧が中心で、主に耐暑性に優れたゼブー系ネローレ種が飼養されている。近年は、穀物生産が増加し、放牧面積が減少傾向にあることから、仕上げ期に穀物を給与するフィードロットによる飼養管理も拡大している。

また、ブラジルでは、長年、口蹄疫対策に取り組んだ結果、２００７年に、南部のサンタカタリーナ州が、国際獣疫事務局（ＯＩＥ）より同国初のワクチン非接種清浄地域のステータスを取得した（２１年５月にワクチン非接種清浄地域として４州の全域と２州の一部が追加取得）。その他の地域も、ワクチン接種清浄地域となっており、ブラジル農牧食糧供給省（ＭＡＰＡ）によると、将来的には、２３年までに、ブラジル全土で口蹄疫ワクチン非接種清浄地域を目指すとしている。また、ＢＳＥについては、１２年、１４年および１９年に高齢牛の非定型ＢＳＥが確認されたものの、２１年１２月時点ではＯＩＥより「無視できるリスク」の国と認定されている。

①飼養動向

ブラジル地理統計院（ＩＢＧＥ）によると、２０１９年の牛飼養頭数は、２億１５０１万頭（前年比０．６％増）となった（図２）。州別に見ると、前年に引き続きマットグロッソ州が最も多く、次いでゴイアス州、ミナスジェライス州、パラー州、マットグロッソドスル州と続いた。従来は、大消費地を含む南東部を中心に飼養されていたが、需要の高まりを受け、地価が安く広大な中西部、北部での飼養が拡大している（図３）。

図２　牛飼養頭数の推移

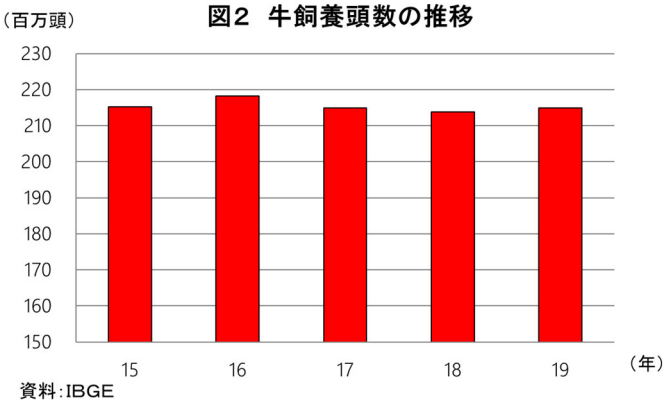
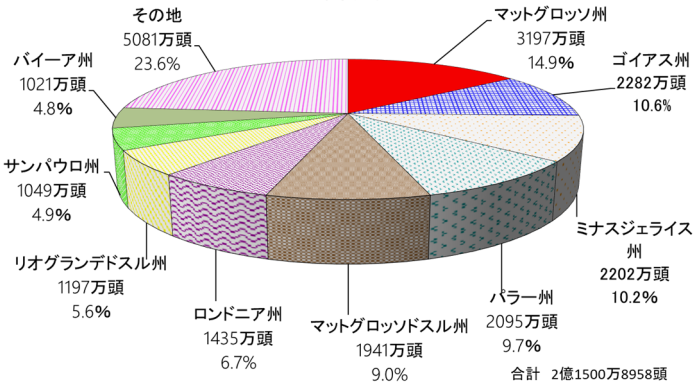


図３　州別飼養頭数（2019年）



②牛肉の需給動向

ア　生産

米国農務省（ＵＳＤＡ）によると、ブラジルの２０１９年の牛と畜頭数は４０６５万頭（前年比２．６％増）、牛肉生産量は１０２０万トン（同３．０％増、枝肉重量ベース）となった。ブラジルのキャトルサイクルは、約７年周期で増減を繰り返すとされているが、１６年に底を打ち１７年以降は増加局面となった。加えて、緩やかな回復基調にある国内経済や中国をはじめとする海外からの需要が強いことも要因の一つとされている。

写真１　ゴイアス州の放牧風景

イ　輸出

ブラジル開発商工省貿易局（ＳＥＣＥＸ）によると、２０１９年の牛肉輸出量（製品重量ベース）は、１５６万９６８７トン（前年比１６．０％増）となった（表２）。

これは、アジアや中東といった地域からの旺盛な需要によるものである。

特に中国向けは、１２年の非定型ＢＳＥ確認以降停止していたが、１５年６月の輸出再開以降、著しい伸びを見せており、１８年のアフリカ豚熱発生の影響による代替需要もあって、１９年の同国向け輸出量は前年比５４．４％増の４９万７７８３トンと前年に続き第１位となり、中国と香港を合わせた輸出量は、全体の４６．１％を占める。このほかアラブ首長国連邦向けも増加した。なお、主要な輸出国であったロシア向けは、同国向け牛肉から使用を禁止されている成長促進剤のラクトパミンが検出された問題で、１７年１２月から１８年１０月まで輸出停止となったことから２０１９年は大幅に減少し、輸出停止前の半分程度となった。

表２　輸出先別冷蔵・冷凍牛肉輸出

区分	2019年			前年同期比（増減率）		
	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量（%）	輸出額（%）	単価（%）
中国	497,783	2,685,450	5,395	54.4	80.6	16.9
香港	225,319	741,349	3,290	▲ 18.7	▲ 30.1	▲ 14.0
エジプト	153,428	466,877	3,043	▲ 10.5	▲ 8.4	2.3
チリ	110,216	423,783	3,845	▲ 3.9	▲ 9.1	▲ 5.4
アラブ首長国連邦	71,172	259,718	3,649	89.4	77.2	▲ 6.4
イラン	64,376	228,209	3,545	▲ 21.4	▲ 28.3	▲ 8.9
ロシア	63,694	214,168	3,362	1645.0	1764.8	6.9
その他	383,699	1,526,828	3,979	11.2	4.8	▲ 5.7
合計	1,569,687	6,546,382	4,171	16.0	20.0	3.5

資料：SECEX
注1：HSコード0201（冷蔵牛肉）、0202（冷凍牛肉）の合計。
注2：輸出量は製品重量ベース。
注3：出典が異なるため、表3と数値は異なる。

ウ　消費

ブラジル国家食糧供給公社(CONAB) によると、２０１９年の牛肉の国内消費量は、６４３万３０００トン（前年比９．０%減）となった（表３）。これは、中国からの強い牛肉需要を背景として、１９年終盤に牛肉小売価格が大幅に上昇し、消費者の需要が鶏肉や魚にシフトしたためとされる。

牛肉の年間１人当たり消費量は、３０．６キログラムとなった。２０１６～１８年は横ばいであったが、１９年（同９．１%減）は、消費動向の変化によりかなりの程度減少した。

表3 牛肉需給の推移

（単位：千トン、kg）

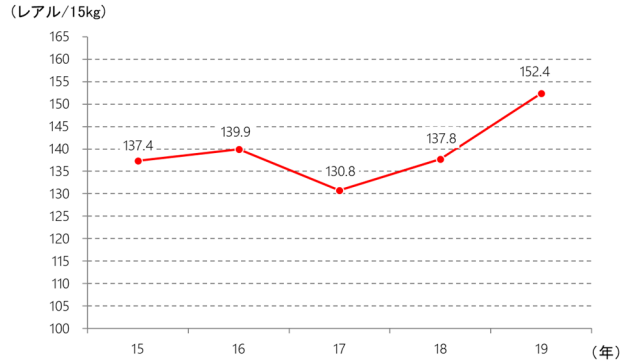
	2015	2016	2017	2018	2019
生産量	8,528	8,716	8,923	9,215	8,866
輸入量	59	64	57	47	50
消費量	6,748	6,955	7,013	7,067	6,433
輸出量	1,839	1,825	1,967	2,194	2,483
1人当たり消費量	33.2	33.9	33.9	33.9	30.6

資料：CONAB
注 1：枝肉重量ベース。
　2：出典が異なるため、表2と数値は異なる。

③牛肉の価格動向

ブラジルでは、牛の生産者販売価格は生体１５キログラム（１アローバ）単位で示される。２０１９年の肥育牛の平均価格（マットグロッソドスル州カンポグランジ市場）は、１アローバ当たり１５２．４レアル（前年比１０．６%高）であった（図４）。特に１９年終盤に価格が大幅に上昇した。牛肉小売価格（ランプ）は、１キログラム当たり２９．２レアル（同４．３%高）となった。

図4　肥育牛の生産者販売価格の推移



資料：CONAB

（２）養鶏・鶏肉産業

ブラジルの養鶏・鶏肉生産は穀物生産が盛んな南部で全体の６割を占め、このほか中西部などで主に行われており、生産から流通まで一貫したインテグレーションも進展している。同国内の鶏肉生産は、ＢＲＦ社、世界最大級の食肉企業であるＪＢＳ社および農協系最大のパッカーであるＡＵＲＯＲＡ社などの主要なパッカーがけん引している。

また、飼料コストが他国に比べて低く優位性があることに加え、鳥インフルエンザが今まで発生したことがなく安定した供給が見込まれることから世界最大の輸出国となっている。

①　ブロイラーの需給動向

ア　生産動向

ＣＯＮＡＢによると、２０１９年のブロイラー用ひなふ化羽数は、６４億５９００万羽（前年比６．５%増）、鶏肉生産量は、１３９３万６０００トン（同４．９%増）となった（表４）。海外からの需要が回復し堅調であることや牛肉や豚肉からシフトした国内需要が要因とみられる。

表4　鶏肉需給の推移

（単位：百万羽、千トン、kg）

	2015	2016	2017	2018	2019
ひなふ化羽数	6,501	6,445	6,206	6,064	6,459
生産量	13,547	13,524	13,612	13,289	13,936
輸出量	4,223	4,307	4,232	4,018	4,175
1人当たり消費量	45.8	44.9	45.4	44.5	46.4

資料：CONAB
　注：輸出量は生鮮鶏肉のほか、鶏肉調製品などを含む。

イ　輸出

ＳＥＣＥＸによると、２０１９年の鶏肉輸出量は、３９５万１３７４トン（前年比３．４%増）と過去最高を記録した１６年から３年ぶりに増加した（表５）。これは、米ドルに対するレアル安が続き、ブラジル産鶏肉の価格競争力が高まっていることに加え、いくつかの国で高病原性鳥インフルエンザやアフリカ豚熱が発生したことにより鶏肉需要が高まったためである。

中国向けは、同国で１８年に発生したアフリカ豚熱の

影響による豚肉の代替需要により、５９万４１３トン(同３４．５%増）と前年を大幅に上回った。この結果、同国向けは、サウジアラビア向けを抜いて最大の輸出先となった。また、サウジアラビア向けは、４８万６４８１トン（同２．８%減）と前年をわずかに下回った。サウジアラビアでは、ブラジルからの食肉輸入を鶏肉から牛肉に軸足を移すとともに鶏肉の自給率向上を目指すこととしている。また、第３位の日本向けは、４１万８７１５トン（同７．４%増）と、近年、年間４０万トン前後の安定的な輸出となっている。

表5　輸出先別鶏肉輸出（2019年）

区分	2019年			前年比（増減率）		
	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	590,413	1,238,474	2,098	34.5	55.0	15.2
サウジアラビア	472,933	795,140	1,681	▲ 2.8	▲ 0.8	2.0
日本	418,705	810,906	1,937	7.4	14.6	6.7
アラブ首長国連邦	345,140	565,128	1,637	11.5	13.8	2.1
南アフリカ	273,308	168,732	617	▲ 17.6	▲ 33.8	▲ 19.7
香港	185,181	287,894	1,555	▲ 12.7	▲ 13.9	▲ 1.3
韓国	120,975	220,813	1,825	6.8	13.9	6.6
その他	1,544,719	2,317,483	1,500	0.3	1.4	1.1
合計	3,951,374	6,404,570	1,621	3.4	9.0	5.5

資料：SECEX
注 1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。
　2：輸出量は製品重量ベース。
　3：出典が異なるため、表4と数値は異なる。

ウ　消費

ＣＯＮＡＢによると、２０１９年の鶏肉の年間１人当たり消費量は、４６．４キログラム（前年比４．５%増）となった（表４）。国内経済の失速に伴って、価格の高い牛肉からのシフトが進んだ結果、１４、１５年と２年連続で増加していた。１６年は安価な鶏肉でさえも消費量が減少することとなった。１７年から経済は緩やかな回復基調にある一方で、牛肉価格の上昇に伴い、より安価な鶏肉に需要がシフトしたとみられる。

②ブロイラーの価格動向

ア　生産者販売価格

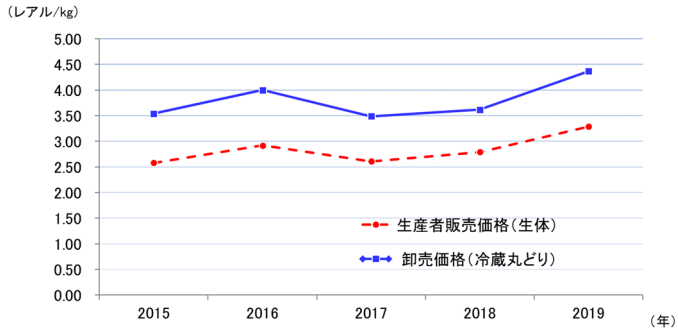
ＣＯＮＡＢによると、２０１９年のブロイラーの生産者販売価格（サンパウロ州）は、１キログラム当たり３．２９レアル（前年比１７．９%高と）前年を大幅に上回った（図５）。

これは、ブロイラー生産コストの約７割を占める飼料費が上昇したためである。飼料の主原料となるトウモロコシについてみると、豊作が続いているものの、米ドルに対するレアル安を背景として輸出が増加するとともに、国内畜産農家からの需要が堅調であり、トウモロコシ価格が高水準で推移した。

イ　卸売価格

２０１９年の冷蔵丸どりの卸売価格（同州）は、鶏肉の引き合いが強まり、同　４．３７レアル（同２０．７%高）となった。

図5　ブロイラー価格の推移（サンパウロ州）



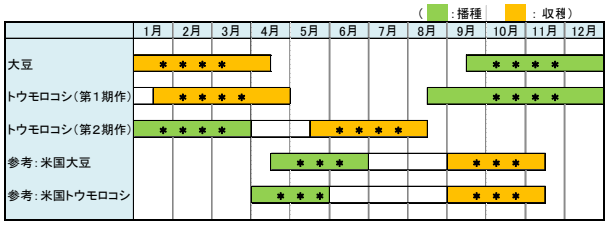
資料：CONAB

３　飼料穀物

ブラジルの２０１９/２０年度（３月～翌２月）のトウモロコシの生産量は米国、中国に次いで世界第３位、１９/２０年度（１０月～翌９月）の輸出量は米国、アルゼンチンに次いで第３位であった。

ブラジルのトウモロコシの作付けは、夏作（第１期作）と冬作（第２期作、第３期作）の年３回行われる（図６）。１９/２０年度（１０月～翌９月）の第１期作、第２期作はいずれもマットグロッソ州（中西部）、第３期作はセルジッペ州（北東部）がそれぞれ最大の生産地となった。パラナ州をはじめ伝統的に生産が盛んな南部３州のシェアは生産量ベースで２１．１％を占めた。一方、近年、生産量を伸ばしている中西部（マットグロッソ州、マットグロッソドスル州、ゴイアス州、連邦直轄区）は、２０１８/１９年度比２．６ポイント増の同５５．４％となった。

図6　ブラジルの大豆・トウモロコシの生育カレンダー



資料：CONAB、米国農務省（USDA）
注：主要生産州の播種および収穫期に基づいて作成。＊印は、各月を前半と後半に分けて、最も盛んな時期を示している。

①　主要な政策

２０１９/２０年度（７月～翌６月）は、ＭＡＰＡが管轄する農業部門に対し、過去最大規模となった前年度をかなり大きく上回る２２２７億レアル（前年度比１４．２％増）が予算措置された（表６）。

この予算は、穀物生産の拡大と環境保全を柱に、食糧の安定的確保や生産者の生産能力・競争力強化などを目的とした融資に向けられる。

表6　農業部門予算の推移

（単位：億レアル）

農業年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20
総予算額	1,877	1,838	1,884	1,911	2,227
営農・販売融資	1,495	1,498	1,503	1,511	1,693
投資融資	382	340	381	400	534

資料：MAPA

営農・販売融資については、１６９３億レアル（同１０．８％増）の予算が措置された。営農融資は農畜産物の生産や加工に係る経費を対象としている。また、販売融資は連邦政府が定める農畜産物の最低価格を基礎として農畜産物を担保に行われる。

投資融資については、５３４億レアル（同２５．１％増）と大幅に増額された予算が措置された。同融資は、ほとんどの場合、ＭＡＰＡが管理し、政府系のブラジル銀行や国立社会経済開発銀行（ＢＮＤＥＳ）が融資を行う。同融資には、温室効果ガスの削減を図り持続的農業を拡大する低炭素排出型農業プログラム（ＡＢＣ、予算額２１億レアル）が含まれ、有機農業プログラムへの適応、牧草地の回復、農業・畜産・森林を一体として推し進めるブラジル独自のインテグレーションシステムの導入などを奨励している。このほか、農業用トラクターおよび収穫機などの近代化プログラム（Moderfrota、同９７億レアル）、倉庫建設・拡張プログラム（ＰＣＡ、予算額１８億レアル）などが盛り込まれている。

②　飼料穀物の需給動向

２０１９/２０年度（１０月～翌９月）のトウモロコシ生産量は、１億２５１万５０００トン（前年度比２．５％増）と前年度をわずかに上回り、過去最高を記録した１８/１９年度を上回ることとなった（表７）。

トウモロコシの播種は、第１期作から第３期作に分けられる。生産量全体の７割強を占める、大豆収穫後に播（は）種を行う第２期作についてみると、作付面積が増加したものの、南部地域の一部で干ばつが発生し単収が大きく落ち込んだことからわずかな増産となった。

また、同年度の輸出量は、１８/１９年度の輸出量が高水準であったことや国内消費が増加したことから、３４８９万トン（同１５．０％減）とかなり大きく減少した。国内では６８６６万トン（同５．７％増）が消費され、１０６０万トンが期末在庫として次年度に繰り越された。

表7 トウモロコシ需給の推移

（単位：千トン）

区分	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20
期首在庫	10,531	5,231	15,876	14,582	10,189
生産量	66,531	97,843	80,710	100,043	102,515
輸入量	3,336	953	901	1,596	1,453
消費量	56,319	57,337	59,162	64,958	68,663
輸出量	18,847	30,813	23,742	41,074	34,893
期末在庫	5,231	15,876	14,582	10,189	10,602

資料：CONAB

２０１９/２０年度（１０月～翌９月）の大豆の生産量は、同４．３%増の１億２４８４万トンと過去最大となった。

作付面積は、同２．０%増の３６９４万ヘクタールとなった。これは、中西部マットグロッソ州といった主産地で、おおむね良好な天候であり、単収が増加したあったためである。

③　飼料穀物の価格動向

２０１９年のトウモロコシ生産者価格（サンパウロ州）は、国内外の強い需要を反映して、６０キログラム当たり３５．０レアル（前年比３．０%高）とやや上昇した（表８）。

また、同年の大豆生産者価格は、トウモロコシと同様に国内外の需要が強いものの 18 年が高値であったことから、同７２．１レアル（同０．６%安）と前年並みとなった（表９）。

トウモロコシ、大豆ともに同年終盤にかけて価格が上昇した。

表8 トウモロコシ生産者価格の推移（サンパウロ州）

（単位：レアル/60kg）

区分	2015	2016	2017	2018	2019
生産者販売価格	24.5	36.8	26.4	34.0	35.0

資料：CONAB

表9 大豆生産者価格の推移（サンパウロ州）

（単位：レアル/60kg）

区分	2015	2016	2017	2018	2019
生産者販売価格	62.5	72.8	62.9	72.6	72.1

資料：CONAB